

【テーマ一覧】

テーマ1：脳由来信号を活用したパフォーマンス最適化ソリューション開発

テーマ2：脳由来信号を活用したコミュニケーション革新ソリューション開発

【予選通過者一覧】

表1 および表2に各テーマの予選通過者一覧を掲載します。
なお、予選通過者と提案タイトルについては応募受付時のデータに基づく表記としています。

表1 テーマ1：脳由来信号を活用したパフォーマンス最適化ソリューション開発
予選通過者一覧

チーム名	提案タイトル
AI-see-eye	人の知能の進化に向けた思考基盤システム「AI-see-eye」の開発
Enhanced Sleep プロジェクト	Brain Washer（脳の洗濯機）ー 睡眠中の脳回復を最適化し心身向上を加速する非侵襲ニューロモジュレーションー
Ruten	脳情報で嚔下を制御するーEEG ベース嚔下 BMI ニューロフィードバックによる新リハビリ市場の創出
Solvvy & 国立精神・神経医療研究センター (NCNP)	慢性症状（疼痛・疲労）向け脳波コンディショニング・診療支援サービス
(株)SandBox, ロート製薬(株), (医療社団)真愛会, and (株)FastNeura	日本の神経科学の基礎研究を、輸出産業として確立する ～新しいビジネスモデル(ソリューション)の提案～
株式会社 Xiberlinc 公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ) 東京フットボールクラブ株式会社(FC 東京)	高次認知機能の脳波フィードバックによる 評価・観察・改善とサッカーパフォーマンスの最適化ーU21 サッカー選手を対象とした PoC による スポーツニューロテック新市場の創出
川崎医科大学 Team-NIRS-NFB	VR-ニューロフィードバックを用いた“座ったまま”転倒予防システムの開発
東和薬品 xVIEx 三井住友海上火災保険	個別化 Gamma 刺激音楽による労働寿命延伸プロジェクト
ブレインリカバリー	脳活動に基づく利き手交換トレーニング最適化システム
琉球大学医学部先端医学研究センター ブレイン・ヘルスケア学講座	Ω メトリクスを用いた個人脳プロファイルによるパフォーマンス最適化ソリューションの開発 -イノベーション人材育成と組織パフォーマンス向上プラットフォームの開発-

表2 テーマ2：脳由来信号を活用したコミュニケーション革新ソリューション開発
予選通過者一覧

チーム名	提案タイトル
AIST AI-BioSignal Resonance Lab	EEG×音声統合による 状態タグ付き対話適応 AI
Mesotron	発語のない自閉症患者による脳由来信号を用いた意思疎通
NeU Challenger R&T	fNIRS 応用による認知負荷適応型 AI・ロボットとのコミュニケーション基盤の開発
Neuro Collective Intelligence Project	脳由来信号を活用した 共創コミュニケーション支援 AI
NICT CiNet 数理脳グループ	脳の「ひらめき」を補う対話支援
URESHINO	脳由来信号を活用した重症心身障害児者向け感情推定コミュニケーション支援システムの開発

Vox Japan 株式会社	brain2mouth ― 文脈予測 × 脳確認 × 本人の口と声で発話する 能動推論型 非侵襲 BCI
(株)SandBox, (株)島津製作所, (医療社団)真愛会, and (株)FastNeura	人間-AI のコミュニケーション革新と、それを支える計測器産業の国産化
クリニカルニューロコミュニケーター(cNC)開発チーム	重度脳機能障害患者とのコミュニケーションを再建する臨床用脳波 BMI の開発

本コンテストにおける対象生体信号の範囲及び審査上の基本的考え方

本コンテストでは、「脳由来信号」の範囲を、いわゆる脳波等に限らず、脳の状態を推定・考慮するために用いられる生体情報を広く対象としています。また、当該生体情報に基づき、利用者への刺激や情報提示、環境変化等を通じて脳の状態に働きかける提案についても、対象となり得るものとして取り扱いました。

予選通過者の公表にあたり、応募・審査の前提となる本コンテストにおける対象範囲及び基本的な考え方について、あらためて以下の通りお示しします。

これは、日本発のニューロテック産業の“芽”の発見や、将来的な国際競争力につながる基盤の育成に向けて、多様な主体の参画のもと、新たなユースケースや価値領域を幅広く探索するという本コンテストの趣旨を踏まえたものです。

※本対象範囲は、本コンテストの運営及び審査上の観点から定めるものであり、学術的な定義を示すものではありません。

懸賞金交付等審査委員会では、ブレイン・ニューロテック領域の健全な発展に資するよう、産業育成の促進と科学的妥当性への配慮の両立を重視しながら、本コンテストの運営・審査を行ってまいります。